

3. 牛ふん堆肥生産における黒字運営施設の特徴と流通促進上の課題			
[要約] 堆肥生産施設を適正に運営して牛ふん堆肥の流通を促進するには、堆肥の良品生産の徹底と取り扱いやすい形態及び独自ブランドにより、多様な販売ルートで多様な消費者へ販売することが重要である。			
研究室名	経営研究室	連絡先	0869-55-0271(内線280)

[背景・ねらい]

近年、畜産部門の環境汚染問題の解決や耕種部門等の環境保全型農業の確立のためには、家畜ふん尿の堆肥化、特にその取り組みが遅れている牛ふん堆肥の流通を促進させることが重要である。そこで、全国の牛ふん堆肥生産施設の実態調査における黒字運営施設の特徴から、堆肥生産施設を適正に運営して牛ふん堆肥の流通を促進させるための課題を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 黒字運営施設では良質な堆肥を生産するために、堆肥の発酵期間を3～6か月間にすると同時に、堆積発酵期間や堆肥の切り返し回数に配慮していた。また、堆肥の商品化に当たっての荷姿は「ポリ袋入りのみ」が多く、しかも1袋当たりの重量は「10～20kg」と取り扱いやすくしていた(表1)。
2. 黒字の主な要因では「自社ブランドがある」、「製品の品質が良い」が多いものの、個人・法人施設では自社ブランドの開発や品質向上などが黒字運営をもたらしているという認識に対して、農協や市町村・公社では好調な需要があるという認識が強く、運営主体の違いによる意識格差がみられた(表2)。
3. 堆肥の販売では、主流となっている自家施設での直売や農協販売だけでなく、ホームセンター、肥料専門店など多様な販売ルートを確認していた。また、目標としている主な顧客は農家だけでなく、一般消費者、造園業者など多岐に渡っていた(表3)。

以上のことから、堆肥生産施設を適正に運営して牛ふん堆肥の流通を促進させるためには、①良質堆肥の生産に向けた作業の徹底を図ること、②堆肥は取り扱いやすい荷姿と重量にし、独自ブランドにより多様な販売ルートで多様な消費者に販売することである。

[成果の活用面・留意点]

1. 牛ふん堆肥施設の適正な運営を図るための指針の一つとして活用できる。

具体的データ]

表 1 堆肥の生産技術と品質表示 単位：施設数、%

区分	回答数	堆肥の発酵期間				良品生産上の留意点				製品の荷姿		
		1か月未満	1～3か月	3～6か月	6か月以上	堆積発酵期間	堆肥の切り返し回数	牛ふん以外の副資材	その他	ポリ袋入りのみ	ポリ袋とバラの両方	バラのみ
全体	93	5.4	22.6	45.2	26.8	55.3	37.2	2.1	5.4	29.5	32.6	37.9
収黒字運営	37	8.1	16.2	48.7	27.0	59.5	40.5	—	—	40.6	37.8	21.6
支収支零	22	—	23.8	38.1	38.1	47.6	38.1	4.8	9.5	31.8	13.6	54.6
別赤字運営	34	5.9	26.5	47.1	20.5	57.1	31.4	2.9	8.6	17.1	40.0	42.9

注) 1. 本表は、全国で牛ふんを主原料として堆肥・有機質肥料製品を生産している施設へのアンケート調査（平成8年12月に実施、配布数156施設、回収率60.9%、有効回答数93施設）によるものである。以下の表も同様である。

2. 牛ふん堆肥施設の約4割は黒字運営であるが、黒字運営施設では収支零や赤字運営施設に比べて運営主体は個人・法人の民間が相対的に多く（67.6%）になっている。

表1の続き				表2 黒字運営の主な要因 単位：施設数、%						
区分	回答数	ポリ1袋当たりの重さ			区分	回答数	自社ブランドがある	製品の品質が良い	好調な需要がある	独自の販売ルート確保
		10kg	10kg～20kg	20kg～30kg						
全体	59	1.6	84.8	13.6	全体	37	27.1	32.4	21.6	18.9
収黒字運営	29	—	93.1	6.9	主個人・法人	25	36.0	36.0	8.0	20.0
支収支零	10	—	83.3	16.7	体農協	8	12.5	37.5	50.0	—
別赤字運営	20	4.0	76.0	20.0	別市町村・公社	4	—	—	50.0	50.0

表 3 販売ルートと目標としている主な顧客 単位：施設数、%

区分	回答数	主な販売ルート						目標としている主な顧客				
		自家直売	農協	ホームセンター	肥料専門店	肥料メーカー	その他	専業農家	兼業農家	一般消費者	造園業者	その他
全体	93	73.7	58.9	10.5	18.9	4.2	12.6	69.9	39.8	28.0	23.7	7.5
収黒字運営	37	70.3	64.9	16.2	27.0	—	21.6	51.4	37.8	35.1	32.4	13.5
支収支零	22	68.2	54.5	4.5	18.2	9.1	13.6	81.0	42.9	14.3	33.3	—
別赤字運営	34	80.0	57.1	8.6	11.4	5.7	2.9	82.4	38.2	26.5	8.8	5.9

注) 複数回答である。

[その他]

試験研究課題・事業名：中山間地における省力・低コスト・環境負荷軽減型
 水稻栽培体系の導入条件の解明～稲作・畜産農家の
 連携システムの解明～

予算区分：地域基幹

研究期間：平成11～15年度

関連情報：なし